

第 10 講 19 世紀、ヨーロッパの世紀

マイフェア＝レディの世界

原作 バーナード＝ショー、『ピグマリオン』

イースト・エンドの花売り娘イライザとヒギンズ教授

↓

二つの国民と三つの階級

ディズレーリの小説『シビル』(1845)

Have と Have not

上流階級 2～3% 下限 1000 ポンド

貴族 1 万エーカー (40 平方キロ) 以上所有→1 万ポンド以上

ジェントリー 3000 エーカー以上所有→3000 ポンド以上

中流階級 20% 下限 100 ポンド

ブルジョアジー：産業資本家、銀行資本家、貿易業者、卸売業者、
小売商人、農業資本家など

1000 ポンド以上も稀でない

専門職 平均 300 ポンド (マルクスは 350 ポンド)

旧専門職：弁護士、医師、教会関係者、芸術家、陸海軍の将
校、大学教授など

新専門職：土木技師、機械技師、建築家、測量士、会計士な
ど

労働者階級 上限 100 ポンド

標準的年収 57～78 ポンド 週給 22～30 シリング

労働貴族層：熟練労働者 80 ポンド以上

極貧層：週給 10 シリング以下

年収 60 ポンド程度の家庭

エンゲル係数 45.2% (中産階級 23%)

不足金 3 ペンス (残金 70 ポンド)

誠に粗末な食卓

ウィークデーには バタつきパンとベーコン、紅茶
日曜日のみ 豚肉とたまねぎ、ヨークシャー・プディング
グ（肉汁のかかったプディング）
肉はほとんど無し

近代（18～19世紀初め）の食生活と比較すると大幅な改善

18世紀後半 運河輸送の発達

石炭を運ぶ平底船

↓

石炭の供給増加

↓

温かい料理が食べられるようになる

野菜や果物を持ち帰る

19世紀前半 鉄道と蒸気船の出現

1802 トレヴィシック 蒸気機関車製作

1814 スティーブソン 実用化

1825 ストックトン—ダーリントン間

1830 マンチェスター—リヴァプール間

↓

全国に鉄道網

1860年代 酢漬けや塩漬けのニシンから塩漬けの肉や乾燥肉へ

1870～80年代 瓶詰めや缶詰、冷凍輸送の発明と改良

↓

オーストラリアやニュージーランド、アルゼンチンなどから

冷凍牛肉や羊肉の大量輸入

北海の鮮魚

アメリカから小麦の大量輸入

↓

パン価格の下落

野菜：従来のたまねぎやジャガイモに加えて、トマトやカリフラ
ワーなども労働者の食卓に登場

果物：バナナやパイナップル、桃など

↓

バターの代わりに瓶詰めのジャムをパンに塗る

紅茶の代わりにココアを飲む

レジャーの大衆化

18 世紀 内陸の温泉地（バース、ターンブリッジ、ウェールズなど）

馬車を所有している上流階級の特権

1 年のうち数ヶ月を過ごす

コーヒー・ハウス、劇場、公園、遊歩道、教会、ダンス会場、賭
博場などを備える

19 世紀 海水浴場（ブライトン、マーゲイト、ラムズゲイトなど）

19 世紀前半は上流階級に限られる

19 世紀後半 実質賃金の上昇と鉄道運賃の低廉化

中流階級 1 ヶ月滞在

夫婦・子供と乳母つき

民家の全室を借り切る

上流階級 ホテルに長期滞在または別荘

下層民 日帰りかせいぜい 1～2 泊

一部屋を間借り

コーリッジの短編

差別化のために自家用馬車の増加

庶民は鉄道で団体旅行

上流及び中流の上（年収 1000 ポンド以上）は自家用馬車による
旅行

自転車の普及と大衆化

1869 イギリスで生産始まる

ペニー・ファージング自転車（前輪が大きく後輪が小さい。
ペダルは前輪につく）

1880年代 チェーン駆動の安全自転車登場（木枠）

1888 ダンロップによる空気入りゴム・タイヤ発明
ロール・ベアリングや金属スポークの発明

↓

サイクリングの流行：男女を問わず週末には郊外にサイクリング

自動車産業の発展に影響

上流階級は差別化のために自動車に向かう

最初は蒸気自動車

1769 フランス人ニコラ=キニョー 蒸気式三輪自動車
2台製造 1台が転倒→規制

1801 トレヴィシク 最初の蒸気式自動車

↓

路線バスの登場：蒸気バス

1827 ロンドンーバース間

1833 パディントンーシティー間：ウォルター=ハンコックの経営するエンタープライズ社

1台で14名の乗客

時速10マイル（16キロ）

↓

1865 「赤旗条例」議会通過

速度制限 田舎道 時速4マイル（6.4キロ）

市街地 時速2マイル（3.2キロ）

バスの前を赤旗を手にした者が走る

車体、特にエンジンが重過ぎる

内燃エンジンの発明

シリンダーの中で爆発：ボイラー・ユニットを取り除く

石炭ガスによるガス・エンジン

- 1859 ルノワール ルノワール=エンジン
石炭の消費量大
点火はピストンの反対側でストロークごとに行なわれる
ガスと空気の混合気体をシリンダーに入れ、電気火花で点火→ピストンを動かす
- 1876 オットー サイクル・エンジン
石炭ガスを供給し続けなければならないので、据付の機械の動力としてしか利用できなかった
- 1885 ダイムラー ガソリン・エンジンの発明
ガスよりガソリン（従来はパラフィン抽出の副産物として捨てられていた）の方が遥に強い爆発力を持っていることを発見
ベンツ 木製自転車にエンジンを取り付ける：モーター・バイク
- 1887 最初の自動車 時速 18 キロで 4 時間走る
欠点 ひどい騒音とガソリン臭

自動車産業の発展

- 1895 アメリカ 年産 4 台
- 1910 年産 16 万 1 千台
- 1913 フォード・システムによる大量生産
- 1896 イギリス 「赤旗条例」廃止：制限時速 4 マイル（6.4 キロ）から 14 マイル（22.4 キロ）に
↓
ロンドンーブライトン間の「解放ドライブ」
（ヴィンテージ=カー=ラリーの起源）
- 1903 ヘンリー・フォード フォード社設立
- 1906 マンチェスターの技術者ヘンリー=ロイスとレーサーのチャー

ルズ=ロウルズ ロールス=ロイス社設立

シルバー=ゴースト製作

40~50馬力 1万4千マイル走行して無故障

シルバー=ゴーストこそは初期の傑作車

18年間世界のベスト・セラー

富豪のためのデラックス車



金持ちのスポーツとしてドライブ流行（馬車から自動車へ）

1903 イギリスの自動車 2万台

5シリングの運転免許証と登録番号を強制

制限時速 20 マイル（32 キロ）に



スピード違反続出・罰金を取られても金持ちのドライバーには
余裕

中流用には1気筒か2気筒の低馬力の小型自動車

価格 100~200 ポンド（中流階級の年収分）



1914 イギリス国内の保有台数 40万台

ゴムやガソリンなどを不可欠とする

ゴム：ラテン・アメリカ原産→マレーなどで栽培

ガソリン：アメリカ・ロシア・イラクなど

アメリカでは飲み薬として利用（おまけにガムをつける）